



フィリピンのはだしの医者

# カティワラ

■企画 財団法人家族計画国際協力財団

■16ミリ・カラー・34分 220,000円

■解説

1978年にWHOとユニセフによって主唱されたアルマアタ宣言によれば、今後数十年間の世界共同体の主要な社会的目標は、西暦2000年までに、世界のすべての人々が、社会的・経済的に生産的な生活をおくりうる程度の健康を得ることとされている。世界の大部分の地域で、まだほど遠いこの目標実現のために、様々な努力がなされている。

医師が不足し、貧困と闘うアジアの大半の地域では、栄養失調をなくし、結核や寄生虫などの伝染病を予防し、上水道・便所などの環境改善を進めたり、身近な薬草などを活用するだけで、ずいぶん病禍をなくすることができる。それら生活に欠くことのできない基礎的な医療を実践しているのが、ここで紹介するカティワラたちである。

カティワラとは、タガログ語で、地域住民の健康管理者として働くボランティアのことで、住民の中から選ばれ、一定期間、基礎的な医療教育を受ける。カティワラは、それまでの一方的に施される医療に代わって、住民自らの手で健康を守っていくとする医療協同組合から生まれた。この映画は、フィリピン・ミンダナオ島に、このカティワラたちの地道で熱意のこもった活動取材し、紹介したものである。昔ながらの社会を少しずつ変えていくこととする、フィリピンの新しい息吹が伝わってくる。

■製作■

株式会社 桜映画社

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1  
TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

■あらすじ

今から十数年前、ダバオ市のスラム地域に、カソリック系の団体などの後援で1つの無料診療所がひらかれた。そのころのダバオ市のスラムは、荒廃した農村地帯からの避難民の流入でふくれあがり、人々は栄養失調で、伝染病が猛威をふるっていたのである。しかし一方的に施しをするこのやり方には限界があり、これに代って、医療協同組合を作ることとなった。やがて、その組合員家庭から、医療補助医が養成されるまでに発展した。カティワラの誕生である。集まったカティワラたちは、40歳前後の母親たちが主で、環境衛生、母子衛生、家族計画等のトレーニングが始まった。治療より、人々を教育することに重点がおかれた。やがて、この試みは、地元のダバオ医科大学の協力もあって、農村にも拡大されていく。

ダバオ地区のリナヤラティアン村のマメルタもカティワラとして活躍している。伝統的な医療の上に、近代医学の知識を得た彼女たちの毎日は、家庭訪問や患者たちの診察、そして薬草園作り、家庭健康教室と、忙しい。

スラムの小さな診療所にまかれた一粒の種子は、都市や農村へと大きく広がっていったのである。

■スタッフ

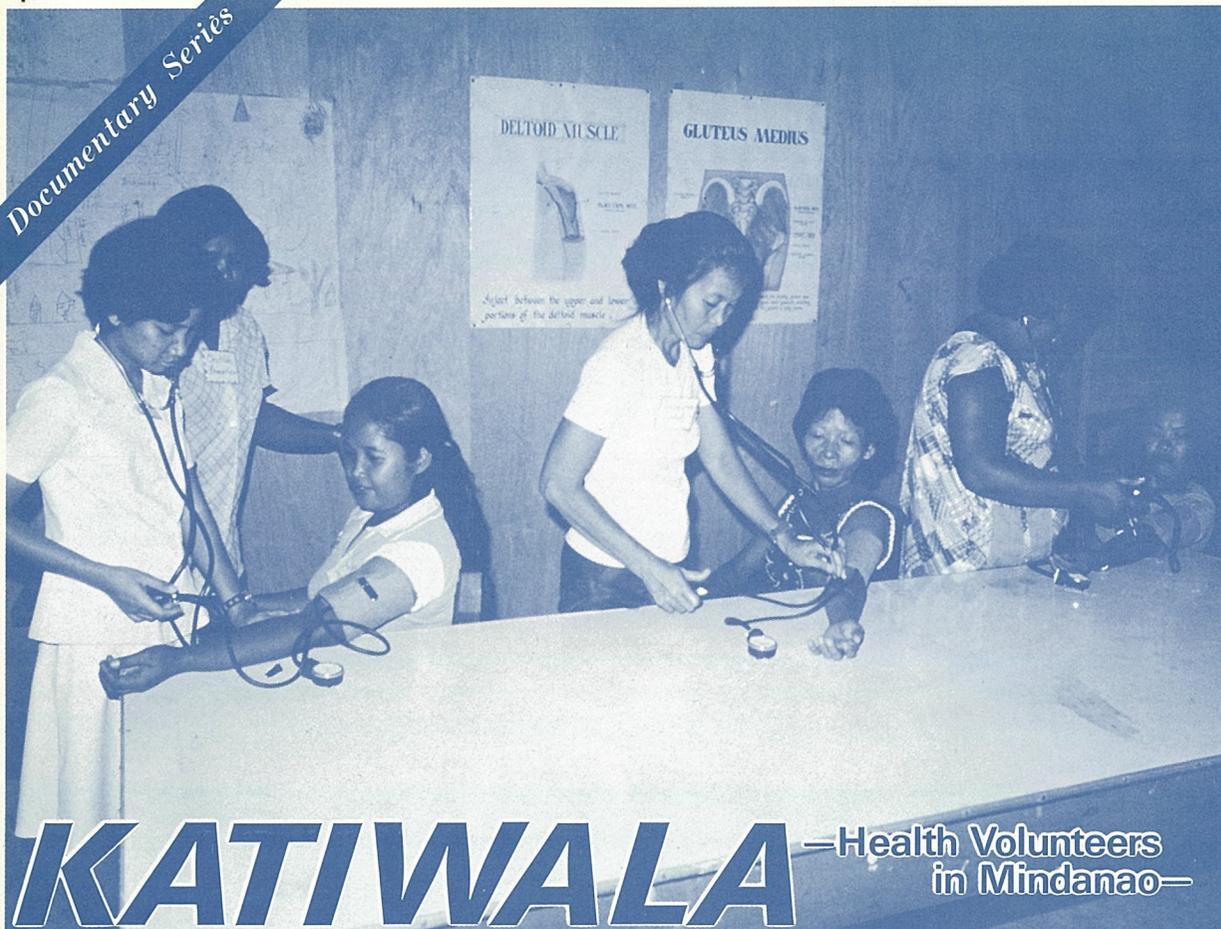
製作 村山英治  
脚本 村山正実  
演出 北川英雄  
撮影 浜坂福夫  
音楽 鈴木端穂  
解説

——アジア映画シリーズ——

- ①インドネシアの母たち
- ②スマトラ物語
- ③村に生きるスラベシ島の人々
- ④カラモアンわが村
- ⑥アメナ(バングラデシュ)
- ⑦菩提樹の下で(スリランカ)

■配給■

Documentary Series



# KATIWALA — Health Volunteers in Mindanao —

16mm Color / 34 min. / English, Japanese

Directed by Sakura Motion Picture Co., Ltd. Standard Bldg., 22-1, Nishi-Shinjuku 1-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 160, Japan Phone: 342-5768 Cable: SAKURAMOVIES TOKYO

Introducing the activities of the voluntary health workers in the Philippines.

Locally called "Katiwala", they are striving to provide primary health care services to people in under-served areas.

## SYNOPSIS

In 1967, a free medical clinic was opened for the slum-dwellers of Davao City. After several years, however, the number of patients outgrew the clinic's capacity, and the facility was thus transformed into a medical cooperative.

The cooperative soon realized that conventional, one-way medical services that were 'given' to the people could not answer their true needs, and started a course to train community health workers. Trainees, mostly housewives, gathered with enthusiasm to receive training on such health-related subjects as environmental sanitation, maternal and child health, as

well as family planning. Acknowledging the importance of stimulating the people's interest as much as possible, the cooperative emphasized human resource development rather than technical sophistication. Finally, the first trustees of health: Katiwala, were born.

With the cooperation of the Davao Medical School, the Katiwala project has expanded to the surrounding areas. A tiny seed of self-help that was first sowed on a slum has sprouted, grown and scattered its seedlings to the neighboring villages, town and cities. Today, it is still steadily growing.

Japanese Organization for International Cooperation in Family Planning (JOICFP)

**JOICFP**

Hoken Kaikan Bekkan, 1-1, Sadohara-cho, Ichigaya, Shinjuku-ku, Tokyo, 162 JAPAN

Phone: 268-5875/Cable: JOICFPJAPAN TOKYO